塩山中学校

「心豊かに，生きる力をはぐくむ教育の研究」

～学ぶ意欲を持ち，共に学び合う集団の育成を意図して～

Ⅰ　研究の内容

本県は学校教育指導重点のひとつに「確かな学力の育成」を掲げ，「学力向上対策」に取り組んでいる。市教育委員会もそれを受け，「確かな学力」育成プロジェクトを昨年度立ちあげ，平成25年度までの２年間を取り組み期間としている。主体的に学習に取り組む態度の育成，思考力，判断力，表現力の育成，さらに学習意欲，学習習慣，家庭学習の課題点を洗い出して本市児童生徒の確かな学力の定着・向上を図るプロジェクトである。また，本校は本年度，学力向上パイロットスクール（以下ＰＳと表記）の指定を受け，同様の内容について学力向上を目的とした研究を行ってきた。

本年度の研究の目標を述べると学級集団づくりを基盤として，学力向上を目指していくものである。理由は，学級集団と学力向上の２点に相関があることが明らかにされており，先行研究からも学級集団が良好であると生徒の本来持っている能力以上に学力が向上し，定着することがわかっているからである（オーバー・アチーバー，アンダー・アチーバー）。

また，生徒が学校生活の大半を過ごすのは学級であり，学級集団づくりは学校の大きな使命である。そのためには対処的な対応ではなく，心理教育プログラムを用いた予防的・援助を構築していく必要性が求められている。そこで，本校では学級集団づくりの方法として，生徒の社会性を身に付けることを目的とし，対人関係の形成に一定の効果が報告さてれているーシャル・スキル・トレーニング（以下SSTと表記）」や「構成的グループエンカウンター（以下SGEと表記）」をはじめとしたグループ・アプローチを導入した。

本校の教育活動の一環である「学校は勉強するところ」の具現化を図り，「一歩前へ」を合い言葉として，学級や学年など，共に学ぶ仲間との関係を構築していくための授業や諸活動の充実を目指し，「学ぶ意欲を持ち，共に学び合う集団の育成」を図るための取り組みとして，昨年度までの研究を引き継ぎ，以下にある研究の柱を設定し，研究を進めてきた。

Ⅱ　研究の柱となる具体的内容と方法

1　意欲的に学ぶ集団づくりに関わって

（1）学びの場として，基本となる授業規律の確立。

（2）「hyper－QU(よりよい学校生活と友だちづくりのためのアンケート)」の実施と分析・活用。

（3）「話し合いのルール」を生徒会と連携して周知する→「学びの集会」を実施。

（4）学級集団におけるルールとリレーションの育成。

2　各教科における現状の把握とそれに伴う指導方法の改善に関わって

（1）各種検査，試験の分析による生徒の実態把握と指導方法の改善。

（2）各種検査，試験の分析から課題をとらえ「ステップアップ授業」の授業研究に活かす。

（3）「hyper－QU」による集団分析→集団の型に合った授業を仕組む。

（4）実技教科における指導目標の明確化。

（５）評価方法の検討。

３　学びの主体となる生徒の「質的」向上に関わって

（１）学力向上への取り組み（家庭学習の習慣化とステップアップノートの活用）。

（２）道徳教育の充実による生徒の情操の育成。

（３）国語力向上の取り組みの継続。

４　研究授業の実施

上記１～３に対して，研究の検証の場としてそれぞれ研究授業を実施した。

（１）　意欲的に学ぶ集団づくりに関わる授業実践→ＰＳ11月実施「公開事例研究会」３クラス

（２）授業づくり，授業改善に関わる授業実践→ＰＳ７月実施「公開授業研究会」６クラス

（３）　生徒の質的向上を意図した授業実践→11月道徳授業参観，全クラス公開

（４）校内研究と初任者研修の成果を生かした授業実践→１月・数学科，２月・社会科

（５）全職員が一人一実践として，「ステップアップ授業」を実施。

Ⅲ　成果と課題

１　成果

成果として主なものを挙げる。よりよい集団づくりを目指すためには，学級集団の状態とその把握は重要となってくる。そのための手立てとして，hyperーQUを年２回実施した。実施後は「K13法」の簡易版を用いて，学年ごと学級集団アセスメントを行うことで，全教員が対応策や指導支援に関わる「引き出し」を共有化し，具体的な方策として，次のことを実践できた。

（１）学級の状況に合った学級集団づくり（対人スキルの育成をねらいとする）のために，全校一斉に，意図的・定期的にSST,SGE実施した。

（２）学級の状態に合った授業づくり（授業スキルの育成をねらいとする）のために，「①縦型と横型によって，授業スキルを変える」，「②授業の構造化（ルーチン化）」，「③Q-U式座席表の活用」，「④電子黒板の活用」など授業実践を行った。

hyperーQUのプレ・ポストの結果を比較検討したところ，学級満足群に所属する生徒の人数は，全国平均35%に対して，80%に達している。このことは，全校体制で学級集団の状況に合ったSST,SGEを学校体制で意図的・定期的に実施してきた成果と考えられ，学級集団づくりに対しては，概ね成果をあげられたと考えられる。

標準学力検査NRTとQ-U検査とのクロス集計からは，学習支援の一次支援レベルにおいて，２年生は68.9%→70.3%へ，３年生は51.8%→52.9%へ上昇した（全国平均は52.3%）。学校生活の一次支援レベルでは，２年生は76.4%→77.8%へ上昇した。３年生は88.6%→87.5%となったが，全国平均は50.2%であるため，十分に成果はでていると考えられる。（１年生においては，プレ実施時にデータがとれていないところがあるため今回の分析からは除外する。）

２　まとめと課題

学力向上の成果については，３月実施のCRT検査の結果を検討し考察を通して，定着の度合い，学習内容に対して，改善策を提案していきたい。また，来年度も「確かな学力向上プロジェクト」と関連を持たせ，今年度の研究を引き続き発展向上させていきたい。

（研究主任　藤原祐喜）